

里育

人々が時間をかけて育んだ美しい自然

里山は、奥山の原生的な自然とは対照的に、都市近郊や集落周辺など身近なところに広がっています。里山を構成する自然は、雑木林や田畑などに代表されるように、人々

が長い時間をかけて作りあげてきました。里山の四季折々の表情は、そこに住む人々の生活感や生きものたちのにぎわいととも彩られています。

春



夏



秋



冬



今やこのような里山の風景も少なくなりました。高度経済成長期以降、里山を取り巻く環境は、過疎化や開発によって大きく変貌しています。

しかし、その一方で、近年の環境問題や自然保護への関心の高まりのなかで、これまで

あまり知られていなかった里山の地域に果たす役割が再認識されつつあります。

また、価値観の多様化を背景に、自然体験や余暇活動の場、あるいは都市住民の新たな居住空間など、里山の新たな役割にも期待が集まっています。

里山の定義は、地理や、植生、社会文化的背景など視点によって様々な考え方がありますが、このパンフレットでは、環境省による次の定義を「里山」として用いています。

「里地里山」

奥山と都市の間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原等で構成される地域概念。

※このパンフレットは、二次林=雑木林として扱います。



1 コラム 県内の里山の分布状況

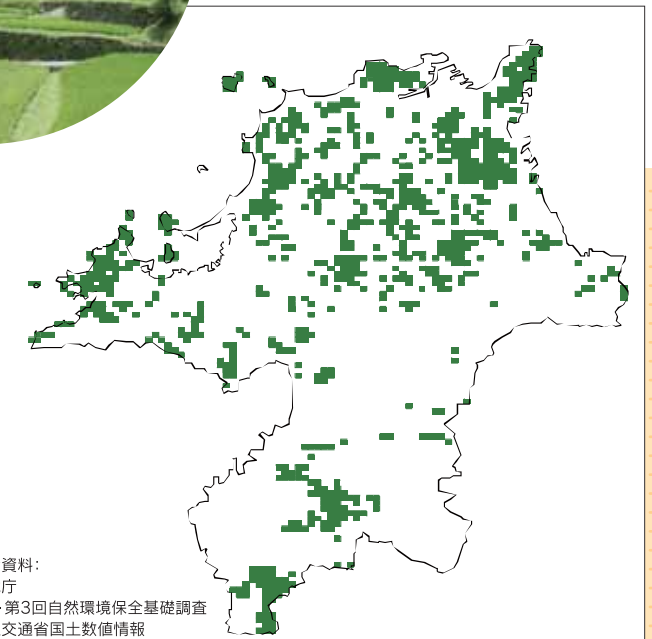
福岡県内ではどのような地域が里山といえるのでしょうか。

一定の条件で抽出したところ、県土面積の約2割が里山と呼ばれる地域に該当することがわかりました。

里山の捉え方は様々ありますが、ひとつの参考になると思います。

里山の抽出条件

- ① 雑木林が優占する地域
- ② 農地が優占し、かつ雑木林がある地域
- ③ 草原が優占する地域



参考資料：
環境庁
第2・第3回自然環境保全基礎調査
国土交通省国土数値情報